

カトリック六甲教会 教会報

2014

11

No.515

前田万葉 大司教 着座式

9月23日、大阪明星学園マリエンホールにおいて、前田万葉大阪教区大司教の着座式が行われました。これにより、前田新大司教は正式に大阪教区8人目（大司教区になってからは4人目）の教区司教となりました。着座式に参列された飯塚小教区評議会議長から報告文を頂きました。



9月23日、大阪明星学園で前田万葉大司教様の着座式にあずかった。開始20分前には会場入りしたのに、マリエンホールは1,700人の信徒ですでに満員、第2会場の地下ホールで大スクリーンでの参列（約600人）となった。大阪教区だけでなく、前田大司教の前任地広島教区と出身地長崎教区からの参加者が多数あったためです。

14時ちょうど、15人の司教と200人を超す司祭の行列が入場し、着任の共同司式ミサが始まった。この日の献金は8月の広島の土砂災害への支援として奉げられた。

入祭の歌の後、駐日ローマ法王庁臨時代理大使の挨拶、神田神父教区事務局長によってローマからの任命書（ラテン語で羊皮紙に書かれている）の日本語訳が朗読された。感謝の歌に続き、池長大司教から教区の司祭団と信者たちへの感謝の挨拶の後、パクルス（司牧杖）を前田大司教へ手渡されて、新大司教は司教座へ着座された。さらに松浦補佐司教から、教区民を代表して教区の紹介と大司教様歓迎と阪神大震災後の新生計画に触れて、「社会の谷間に置かれた人たちの心を生きる教会」への決意が表明された。

栄光の賛歌、ローマ書「・・・キリストに結ばれたひとつの体・・・怠らず励み、霊に燃えて、主に仕えなさい。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。」の朗読、答唱、アレルヤ唱とごミサは続けられた。福音はルカの「・・・シモンは『お言葉ですから、網を降ろしてみましよう』と答えた。・・・イエスはシモンに言われた。『恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる。』・・・彼らはすべてを捨ててイエスに従った。」が朗読された。

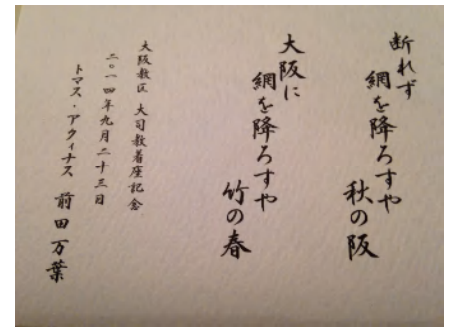
説教では、前田大司教が万葉の名前の由来と生い立ちを自ら簡単に紹介された。次いでこの日のカードにある2つの俳句『断れず網を降ろすや阪の秋』『大阪に網を降ろすや竹の春』について触れて、福音書のシモンとの応答を大司教への任命時の心境に重ねながら解説された。「竹の春」は秋の季語で、竹の葉が最も茂る季節を意味するが、着座するこの秋(とき)に大阪教区の「新生計画」の発展が期待されるとの心のうちを述べられた。また転任の発表後に起きた広島の土砂災害に心を痛めておられるときに、逆に励ましを受けたことへの感謝も述べられた。続いて、ホスチアとともに、新生計画の冊子と教区8地区の代表による8本のロウソクが奉納された。

拝領のときには、地下会場にもご聖体が運ばれてきた。ご聖体をいただいて着席していると、どこかで見たことのある温かく優しいお顔の方がご聖体を渡しておられる。そう、さっき大スクリーンの真ん中に居られた前田大司教様ではないか。気付いたときには拝領の行列が終わり、ホールの会衆にむけて祝福を贈って姿を消された。数分後、再びスクリーンの中に戻られた。

岡田大司教（司教協議会会長）から前田大司教へこれまでの尽力に感謝とお祝いの言葉、池長大司教の貢献に対する謝辞、広島教区に新司教が用意されるはずとの励ましの言葉があり、16時ちょうどに、2時間の着座ミサを終えた。福音の「しかし、お言葉ですから網を降ろしてみましよう」の時と同じように、大司教様の降ろした網にいっぱいあふれるばかりの大漁となることが予感させられる着座式であった。池長大司教様、長年にわたり有難うございました。

高山右近列福のキャラクター「うーこんどの」に送られ、心豊かにさせられて帰路についた。

(小教区評議会議長 飯塚)



(写真提供：高山さん)



ナルドの花たより

《切り離せない「神への愛」と「隣人への愛」、教皇、日曜の集いで》

教皇フランシスコは、バチカンで10月26日、日曜正午の祈りを信者と共に唱えられた。集いの説教で教皇は、この日のミサ中の福音朗読箇所（マタイ 22, 34-40）を取り上げられた。この箇所では、法律の専門家がイエスに、律法の中でどの掟が最も重要かと尋ねる。イエスは「心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい」と申命記を引用しながら答え、これを第一の最も重要な掟として示された。しかし、イエスはこれに留まらず、レビ記を引きながら、「隣人を自分のように愛しなさい」を同様に重要なものとして加えられた。

イエスの新しさは「神への愛」と「隣人への愛」という2つの掟を、互いに不可欠で補い合うものとして、硬貨の両面のように合わせて提示されたことにあると、教皇は述べられた。実際、キリスト者が目に見えるしるしとして世に表すことができるのは、「神の愛とは隣人への愛」であるということ、と教皇は強調。イエスはこのことを掟のリストの「頂点」としてではなく、すべての「中心」として示されたと指摘された。

イエスの言葉に照らすならば、愛は信仰の物差し、信仰は愛の中心であり、信仰生活を兄弟たちへの愛と奉仕の生活と切り離すことはできないと述べた教皇は、「信仰とはいかに愛するか」とい

うことと説かれた。

また、すべての兄弟たち、特に小さく弱く貧しい兄弟たちの顔に神の顔が映し出されていると教皇は話され、これらの兄弟に出会う時、わたしたちは彼らの中に神の御顔を認めることができるだろうかと問われた。

イエスはこうして生き方の基本となる規範を一人ひとりに与えると共に、聖霊をわたしたちに送ることで、イエスのように神と隣人を自由と寛大さをもって愛することができるようにしてくださいと説かれた。
(バチカン放送局HPより)



<行事報告>

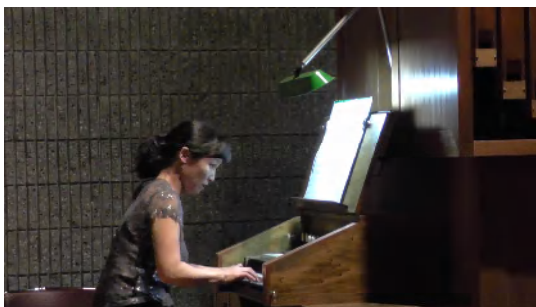
「祈りと音楽のつどい」(9月27日)

第14回「祈りと音楽のつどい」は9月27日(土)17時30分から開かれました。演奏は京都カテドラル・カトリック河原町教会オルガニストの桑山さん、世界的にも活躍されている演奏家です。

秋口の静かな夕べ、大聖堂にゆたかで優しくそしてまた堂々とバッハの調べが広がりました。信仰に裏付けられた桑山さんのオルガンは聴く者の胸にひびき、まさに祈りと音楽が溶け合ったようなひとときを過ごしました。聴衆は80人ほど。音楽愛好者、信徒、それぞれに聴き入って下さったと思います。

演奏後、夕方7時のミサが始まるまでのしばしの時間、桑山さんを囲んで、聴きにきていただいた方々との歓談の時も持ちました。そのままミサに与る人々もあり宣教の一助となったかと思えます。

次回は12月23日(火)午後2時からクリスマスにちなんだ「祈りと音楽のつどい」になります。
(音楽チーム 詫)



長崎祈りと巡礼の旅(10月3日~5日)

そもそもこの企画の発端は、この春にカトリック六甲教会の前主任司祭松村神父さんが長崎の「立山黙想(祈り)の家」に赴任が決まった時からです。「黙想の家はシスターや諸々の経費で多くのお金がかかるので、是非六甲教会の皆様も来てください」との神父さんの依頼を受け、私と一部仲間が協力しようということでこの旅行を計画しました。

企画内容は4人のメンバーが数回にわたり打ち合わせをして、練り上げたものです。あくまで黙想の家を宿泊拠点にし、飛行機とチャーターバス手配だけを旅行会社に依頼し。行程、訪問先の対外交渉や食事場所は黒崎出身の山脇さんを中心に、長崎通の橘さん親子や川越さんの意見を取り入れ作り上げました。私の役割は参加者の引率(団長)と移動バスの中でのイベント担当、写真撮影や思い出のアルバム作製でした。

黙想の家は、長崎市内を見渡せる高台にあり、特に夜景は抜群。松村神父さんともわずかな時間でしたが、交流を持つことが出来ました。

またいろいろな教会やキリシタン所縁の施設巡りは参加者に感動を与え、念願の軍艦島上陸、伊王島訪問と盛り沢山の旅行でした。台風18号接近にもかかわらず、旅行中は天候にも恵まれ、病人や怪我人も出ずに全行程を予定通り消化できたのは、神様のお恵みがあつたからだと思います。

(蛭田)

.....

「長崎祈りと巡礼の旅」に参加して

教会でツアーを組む。それも長崎、松村神父様のところに「行く?」「ハイ!」。一瞬教会行事と錯覚していました。(混声合唱団の皆さん、すみません!)後は誰かの指示に従ってついていくだけです。

気が付くと箱詰のいちごのように効率よく人を並べて飛行機は低いエンジン音とともに白い雲の上、そして長崎。そこは坂と階段の街、六甲の比ではありません。26聖人の処刑された丘は、当時陸の際であり海の前であったとか。市街地のど真ん中で「ここから先は埋め立て地です」と言われた。急な斜面に少しずつ手の平ほどの畑の跡がある。

ドロ神父の足跡を訪ねて出津(しつ)へ向かう時、「子捨川」と言われる場所があった。迫害の時代、藩の経済安定のため、長男以外の子をここから海へ捨てることを強制して、人口の増加を防いだという。この時の子供を守り、信仰を守るためすべてを捨てて、命がけで五島へ逃げた人々がいたそうだ。

更に歴史館の庭には大きな壺がいくつかあった。当時、信徒がこの中に入れられ、村人が一人ずつ石を入れて生き埋めにしたとか…。でも自分で信仰を棄てるかどうかを証する踏絵とは、根本的に違うように思う。人減らし、口減らしの為であったのではと思う。

坂の途中にあるイモ等が植えられているが、黄色い曼珠沙華が群れ咲いているところが多い。入江の奥に珍しくかなり広い耕作地があったが、そこも今は荒地となっていた。造船、観光、その他いろいろな産業が今は人々の生活を支えているのだろう。ドロ神父の働きの偉大さは十分に納得出来た。

海の幸は今も変わりなく、昼食のお刺身は大層美味しかった。もう少し時期が早ければ、ウニがめっぽう美味しいそうだ。

多くの教会が土足では入れない。半円の天上を中央に、両側に少し低く狭くした半円の天上、祭壇は天上が高く、突き抜けてズート上まで。水拭きで磨かれた床が大切に守られた歴史を感じさせてくれた。

浦上天主堂は、後の壁面いっぱいの見事なパイプオルガンがあったが、ミサ中に演奏されたのはエレクトーンであった。黙想の家ではリードオルガンが聖堂の外にあり、聖堂の中にはエレクトーンと小さなキーボードがあった。

アンティークな街、アンティークな聖堂に電子楽器は似合わない。是非、アコースティックなオルガンの音が響いて欲しい!と、六甲教会を愛する私は思いました。

少し遅れた台風から逃げるように、黒い雲の隙間から見えた長崎の街の灯りに別れを告げて神戸へ。

「長崎は坂と階段、曼珠沙華」松村神父様、お世話になった皆さん、ありがとうございました。

(十河)

社会活動部 学習会（10月26日）

10時ミサの後、イグナチオホールで精神科の大西先生によるセミナーが行われた。テーマは「今日からはじめようこころと体の健康づくり」で、特に奥方がたくさん聞きに来られていた。

先生はこころの専門家だけに、ストレス対処法、良い人間関係を保つ秘訣、睡眠の重要性、不眠対処法など事例を出しながら面白く話され、あっという間の1時間だった。

先生は「適切な栄養をとり、1日30分の運動、良い人間関係を維持し、『何とかなる』を口癖にして、ストレスを溜めないようにし、欲張らず、目標を持ち、毎日を暮せば、健康で長生き出来るはずです」と結論づけられた。
(蛭田)



《各部だより》

各専門部会の活動をお知らせいたします

地区役員会

11月15日（土）教会大掃除後

広報部

11月29日（土）教会報印刷

宣教部

11月23日（日）宣教部会

三日月会

11月17日（月）ミサと懇親会

典礼部

11月16日（日）侍者練成会

《 お 知 ら せ 》 教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです
★社会活動部より★

11月5日(水) 10時	手芸の集い(第1・第2会議室) どなたでもご参加ご自由です。
11月8日(土) 10時	炊き出しはお休み
11月16日(日)10時ミサ後	ふれあい広場 (お弁当、食料品、手作り作品などの販売)
11月20日(木) 14時	ベタニア ミサと茶話会
11月28日(金) 9時30分	ともしび ケーキ作り (イグナチオお台所)

2014年度チャリティバザー 「愛を届けよう」

今年も11月9日にチャリティバザーが催されます。皆様のご協力をお願いいたします。
かつて私が婦人会のお役に携わっていた時、様々な施設から婦人会に寄付の依頼がありました。
その時、私達の援助を必要としている方々が沢山いらっしゃるのを知りました。
チャリティバザーの収益金は全額チャリティーに使われます。一人ひとりの力は小さくても皆で
力を合わせると大きな力になる事を毎年のバザーで感じます。
私達の援助を必要とされている多くの方々の為に、貴方の愛を届けてください。
ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。(地区委員バザー担当 森川 房代)

日時：11月9日(日) 9時ミサ後 10時～14時 (雨天決行)

- ・収益金は全額チャリティー先へ献金されます。
- ・どなたでもご自由にお越しください。
- ・前日・当日、駐車場は使えません。お車でのご来場はご遠慮ください

諸死者の記念ミサ

日 時： 2014年11月24日(月) 10時 司式：アルフレド神父
場 所： カトリック六甲教会
主 催： 援助修道会六甲修道院 (tel. 078-851-9026)

どなたでもご自由にご参加くださり、共に祈っていただきますようご案内申し上げます。

- ・ミサの中で祈っていただきたい方のお名前を紙に書いてお持ちください。
- ・ご希望の方は故人のご遺影をお持ちください。
- ・ミサ後の茶話会は設けておりません。ミサ後解散とさせていただきます。

カトリック入門、養成講座・聖書研究などのご案内

2014年10月～2015年3月

曜日	週	開始時刻	クラス名	対象	担当者	場所	開始日
日	第1・3	11:00	キリスト教入門	欄外注★1	コリンズ神父	会議室5	10/5
	毎週	11:00	中高生会(欄外注★2)	中高生	リーダー	中高生会室	
火	第1	10:00	聖書を読む	どなたでも	コリンズ神父	会議室1	10/7
	第1・3	10:30	福音の喜び	どなたでも	高山神父	会議室4	10/21
水	第1・3	10:00	福音のよろこびを生きる	どなたでも	こいずみゆり	会議室5	10/1
	第2・4	10:00	キリスト教入門	どなたでも	コリンズ神父	会議室3	10/8
	第1・3	14:00	カトリック教会の教え	どなたでも	高山神父	会議室4	10/22
木	第2・4	14:00	みことばを聴く	どなたでも	コリンズ神父	会議室1	10/9
	第2・4	19:00	聖書による信仰入門	どなたでも	吉村信夫	信徒会館	10/9
金	第2・4	10:30	聖書研究(英語)	どなたでも	コリンズ神父	会議室5	10/10
土	第1～4	14:30	教会学校	小学生	リーダー	信徒会館	

★1 対象:入門志願者のみ。但し、紹介者同席可

★2 中高生会は学期中のみ

場所・天候などにより、休講になる場合があります。事前にご確認ください。

.....

宣教部主催 2014秋の黙想会

テーマ； 新しい世界を生きる ～新しい革袋としての教会～
 日時； 11月22日土曜日 午前10時～午後4時
 ＊午後3時よりミサ ゆるしの秘跡も受けられます。
 場所； 六甲教会主聖堂・イグナチオホール
 指導司祭； 高山 親神父
 対象； どなたでも
 参加費； 無料
 ＊昼食持参 お茶準備します
 ＊当日参加歓迎

問い合わせ先； 六甲教会事務局 ☎ 078-851-2846

「みんなの広場」原稿募集！

「みんなの広場」にみなさまからの原稿を募集いたします。信仰メッセージに限りません。日々の喜び・悲しみ・感謝、暮らしの中での気づき等、数行でけっこうです。原稿を頂戴しました月に、到着順、洗礼名（ご希望の場合はフルネーム）で掲載いたします。



- ・ 締 切： 毎月 15 日
- ・ 提出先： ①教会事務受付
②教会 Fax078-851-9023
③E-mail: renraku@rokko-catholic.jp

※ ご寄稿頂いた翌月号に掲載予定ですが、紙面・編集の都合により、その月に掲載できない場合がございます。ご了承ください。

※ 洗礼名で掲載いたしますが、後日広報部からご連絡させて頂く必要がおこった時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。（広報部一同）

《 図書室からのお知らせ 》 *****

2014 年 10 月に入った図書から

☆ カトリック入信以前 —— 池田 義彦 著 フリープレス 刊

50 歳台半ばに洗礼を受けた著者が、受洗に至る心理と動機について、受洗の数年後に「回心」の道筋を書き記した記録。「信仰」に至るまでの世界観・人生観・価値観・処世観の転換について述べている。『カトリック入門』までの道程を案内する入門手引書であり、「教会」へ至る歩みを進める誘いともなる。周りに居られても、教会に今一つ近付こうとしない家族や友人に薦めてみたい本。

☆ 回帰としてのカトリック —— 藤原 治 著 教文館 刊

青年時代に教会を離れた著者が、老年期を迎える今、信仰への回帰を試みた「告白」の書。神存在の矛盾を説く科学者の友人への反駁を通して、実存的関心に基づいた「自分自身のためのカトリック」論を大胆に展開する。・・・痛快で型破りなエッセイ風神学通論！〔書籍の帯より〕

神(存在証明、創造、原罪、全善) 人間(自由、産みの苦しみ・労苦・死) イエス・キリスト(三位一体、受肉と変容、奇跡、死と復活、アガペー・隣人愛) 聖書・伝承(福音書、使徒終末(終末論) 教会(教会、教皇庁) [目次より・主要テーマ一覧]

著者は 50 余年前に神戸のミッションスクールで受洗した「よい子」でした。〔はじめに より〕
そのころ流行りの実存主義を巡って、真理と生き方を求めての議論と読書に励み悩んだ“若者たち”に、当時の純真さと熱気を懐かしくも思い出させてくれる力作。

☆ ぞうきん —— 河野 進 幻冬舎

著者は『玉島の良寛さま』と呼ばれていた教会牧師。五十有余年に亘って救済運動に尽力された。1990 年永眠(86 歳)。簡素で、励ましと慰めをもたらす多くの詩を残した。

Sr. 渡辺和子の「置かれた場所で咲きなさい」の中で感動を持って紹介されている詩集。心に響き、希望と優しさへ促してくれる祈りの詩たち。次に表題の詩といくつかを引く。

『ぞうきん』 こまった時に思い出され／用がすめば すぐ忘れられる 〃ぞうきん／台所のすみに小さくなり／むくいを知らず／朝も夜もよるこんで仕える／ぞうきんになりたい

『さりげない』 さりげない花一輪で／風景がゆたかに／／さりげない善意の一言で／あたりが和やかに／／さりげない見舞いで／病床はにわかにも明るく

『ちっぽけ』 幼児よ／こうわらわれたら／たまらん たまらん／こうおこられたら／かなわん かなわん／おとなって／ちっぽけだな

※教会員の方々と分かち合いたい図書・映像などの紹介や、皆様の感想文を募集しております。図書室に在る本やDVDでも、無いものでも構いません。原稿をお待ちしております。後日ご連絡させて頂く必要がおこった時のため、提出原稿には必ず氏名・連絡先をご記入ください。

- 原稿提出先：
- ①教会事務受付
 - ②教会 Fax078-851-9023
 - ③E-mail: renraku@rokko-catholic.jp



みんなの広場

11月1日のことども

11月1日は「諸聖人」の祭日になっている。嘗てこの日は守るべき大祝日であったが、概ね平日で守る口実を探さなければならなかった。

11月2日は「死者の日」、嘗ては「奉教諸死者の記念」日と称していた。1915年、ベネディクト15世はこの日司祭が各々第1、第2、第3の固有文が異なった3回のミサを捧げることを許した。1日の午後から2日終日、一定の条件を満たせば何回でも「全贖宥」が与えられた。

「贖宥」は、今は「免償」と言葉が変わっているが「贖宥」の方が本意に近いと思う。熱心な信徒はこの日煉獄の霊魂のために何回も「全贖宥」を稼いだ。

六甲中学校の創立記念日が創立とは関わりのない11月1日であったのは、守るための苦肉の策であった。2日は「感恩感謝の日」とされていた。

「聖人」とは既に天国に入っている人のこと、「列聖」や「列福」というが教会が認めたから「聖人」になるのではない。神様は誰が天国に入っているのかを少数の例外を除いて明らかにされたいが、無原罪のマリア様は別にして、肉体の死と同時に天国へ受け入れられた人もいるだろう。煉獄の潔めと償いを果たした人もいるだろう。極悪非道の故に刑死した人であっても不思議ではない。神様は十字架の上でこのことを自ら明らかにされた。だからといって他人事では済まされない、福音書を読めば明らかなことだ。我々も「聖人」にならないとどういうことになるのか。人間は一人のこらず「聖人」になるために日々を過ごしている。

人間の社会は刻々変わる。「その中であって変わるものがないもの」ことを静かに考えよう、武宮隼人神父の遺訓を思い起こす。ティヤール・ド・シャルダン神父の「神の場」も翻訳出版されている（五月書房、2006年）。11月は「死者の月」とされていた。「天国」「煉獄」そして今の日々、それは一つの「神の場」ではないか。今月は読んでみるとよいだろう。諸聖人を祝った翌日に死者を想う。「四終（死、審判、天国、地獄）」（ヨハネ 三好）

光と闇1 ー光に引き寄せようとするカー

殉教者は天国へまっすぐいっちゃるとお聞きしたときから、信仰宣言の「十字架につけられて死に、葬られ、陰府に下り、三日目に死者のうちから復活し」が不思議でたまりませんでした。マリア様も天に上げられました。なぜイエス様が陰府に下られ、そこに三日も滞在なさる必要があったのでしょうか。「死者のうちから復活した初穂」も不思議でした。ご変容の箇所でもーセもエリヤも現れたのですからなぜ「初穂」なのかしら？と。

しかし、これらが「死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい」(マタイ 8:22) に結びつき、1) 生きていても死んでいる者もいれば、死んでも生きている人もいる、2) ご変容は、「初穂」としてご復活なさった後の世界を先取りしてみせてくださったのだ、と思ったとき、「陰府に下り、三日目に死者のうちから復活」は、主の測り知れない愛の表れではないかしら？と思うようになりました。

モーセやエリヤを送ってさえすぐに背いてしまう私たちを救うために、とうとう「これに聞け」(マタイ:17:5) と神(メシア) ご自身が人間となってくださったのが御子のこの世でのご生涯でしょう。神でいっちゃるのに人間の位置まで降りてきてくださった(私たちの苦悩をことごとく体験してくださった) 主の「漏れなく救いたい」との溢れるほどの愛と慈しみ、憐みは陰府にまで及んでいるのでしょうか？ 主はこの世でのご生涯と同様、陰府の苦しみを私たち罪人と一緒に味わってくださるのでしょうか？ 陰府で罪人を招いてくださるのでしょうか？ この世で救いを拒否したユダを探してくださっているのでしょうか？

私はいったいどのくらいユダのように主の救いを拒むときがあり、「死者」であるのかと申し訳なく思いますけれど、すべてを、それこそ「あなたがたの髪の毛までも一本残らず」「お忘れになるようなことはない」(ルカ 12:6-7) とおっしゃってくださる主の前に安心してのびのびと自由な気持ちでいることができます。

この世の旅の中には病も別離も理不尽に思えることも辛いことも、ときには死んだ方が楽かもしれない(?) と思う闇に置かれることもあります。けれども主が「世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ 28:20) とお約束くださったのですから、主の前に正直に、この世で罪人のまま、不完全なまま、ただ「生者」であり続けたいと願います。

闇(罪、不完全、死、恐れ)からの解放――。

光であるご自身のほうへ常に引き寄せてくださる主に引き寄せられ、そこで主の内に生きることができる喜びを知らされたゆえ、今度は主の共同体へと引き寄せようとする力が福音宣教ではないでしょうか。

「キリストにおいて」(キリストを律法として)、「キリストとともに」(インマヌエル)、「キリストのうちに」(キリストのうちにすべてを入れながら)、「生者」であれるように、生きていと実感できるように、助け合い、支え合い、祈り合い、「私たちの」主をみつめて共に歩んでまいりたいと願います。

私たち家族が主の愛と一致のしるしとなりますように…。

(間違った解釈があれば一信徒の感想とご容赦くださいませ。)

(マリア)

~~~~~

先日、毎日新聞を読んでいると、「ミッション系の学校も独自でキリスト教教育を維持するのが難しくなっている。」という記事があった。神父の減と生徒の父兄の進学校としての期待度が強いからであろうか。

私の在学中はドイツ人、アメリカ人、スペイン人と 10 名近い神父がおられ、宗教教育にも熱心であったが、今は日本人神父一人しかいない。だから当然なことながら洗礼を受ける生徒も少なく、神父の召し出しもほとんどない状態のようだ。ミッション系女子高も同様にシスターが少ないと聞いている。教会も神父の高齢化、減少傾向の中、これからはキリスト教を布教するに当たって、信徒の役割が益々重要になってきているのではないだろうか。 (エドモンド)

|                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報12月号の発行は、11月30日(日)です。<br/>         編集会議11月23日(日)です。<br/>         記事原稿は、11月16日(日)正午までに信徒会館<br/>         受付へご提出願います。 (広報部)<br/> <a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会<br/>         〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21<br/>         電 話 0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6<br/>         F A X 0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3<br/>         発行責任者 アルフレド・セゴビア<br/>         編 集 広 報 部</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|